6月24日の礼拝メモ

『1デナリ以上の意味ある報酬』

マタイの福音書 20:1～16

ただ、私としては、この最後の人にも、
あなたと同じだけ上げたいのです。

序〕

イエスがこのたとえ話をされるきっかけは、ペテロの質問にあった(19:27)。「何かもらえるのでしょうか」と問うたペテロは、最初に雇われた労務者に似ている。我らも感謝ではなく不平ばかりの信仰生活を送っていないか？このたとえ話は、ペテロの考え方を是正するために語られた。

本〕

Ⅰ最初に雇われた労務者たちの勘違い

①彼らだけ、一日1デナリの約束を取り付けた。

交渉の末、彼らは一日1デナリで出かけている。我らは自分からご利益を求める必要はない。神はわれらの願うより、思うよりまさることをしてくださる。

②彼らには、自分たちはこれだけやったという傲慢があった。

確かに彼らが一日中、大変な中で働いたのは事実だった。ペテロも、何もかも捨ててイエスに従ったのも事実。しかしこのような思いで働いていても、果たして神をお喜ばせできたかどうかは疑問。

③彼らは他を批判し、軽蔑した。

12節には、「この最後の連中は一時間しか働かなかった。」とある。感謝が薄れると、必ず他者と比べ、優劣どちらかに偏った思いをもつ。いちいち神に訴えなくても、全部神は我らのことを分かってくださっている。人と比べる必要は何もない。

Ⅱ最後に雇われた労務者たちへの恵み

午後5時からは、当時午後6時に仕事が終わることから考えると一時間しか働けない。彼らを雇ったというのは主人の憐れみである。この人々の姿の中に、まだ神と出会っていない人々の姿を見る。「なぜ一日中、何もしないで立っているのですか」外面は仕事も順調、家庭も安定、しかし心は空っぽ。この主人だけは「あなたがたもぶどう園に行きなさい」と彼らを招いた。神は我らにも「あなたがたも天国に行きなさい」と言ってくださる。なぜ、主人は彼らにも1デナリを支払ったのか？おそらく、最後の労務者たちは雇われた喜びを前面に押し出して、一生懸命働いたからだと思う。

結〕

払われたのは同じ 1 デナリ。しかし、最後の労務者にとっては 1 デナリ以上の意味があった。主人への心からの感謝が労働の形に表れた。世の終わりが近いことを思うと、我らは午後 5 時からの人間。憐れみによって救われたお互い、残された日々を主のために全力を尽くそう！